

高崎だるまミュージアム（仮称）建設基本構想

高 崎 市

令和6年6月

1. 基本構想策定の経緯

「高崎だるま」は、豊岡村が高崎市と合併する前までは、「豊岡だるま」と言われ、豊岡地区を中心に、だるまづくりが盛んに行われ、農閑期の生活を支える地域の重要な産業でもありました。

豊岡地区では、現在でも多くの職人達がだるまの製造に携わり、歴史と伝統文化、技術の継承に努めています。

「高崎だるま」は、国内の張り子だるま生産・販売のトップシェアを誇り、高崎を代表する伝統工芸品で、眉は鶴、髭は亀と その絵柄から縁起だるまとも呼ばれており、毎年正月に開催される高崎だるま市には、福を求め多くの人々が集まり大きな賑わいを見せています。

そのような中、本市では「高崎だるま」の更なる販売促進や国内外からの誘客を増やし、賑わいと魅力のあるまちづくりを進めていくため、また、伝統を守り、技術を後世に繋げていくとともに、その歴史や文化を広く世界に発信していくために、高崎だるまミュージアム（仮称）の建設検討に着手しました。

現在、豊岡地区では、令和8年度末の開業を目指し、信越本線において新駅の工事が着々と進められていますが、新駅の隣接地に高崎だるまミュージアム（仮称）を整備することで、「地域のシンボル」とするとともに「だるまの里・豊岡」を広く発信し、新駅の利用促進や沿線地域の活性化も図っていきます。

高崎だるまミュージアム（仮称）の建設検討にあたっては、幅広い意見・提案をいただくため、高崎だるまミュージアム（仮称）建設検討会議を設置し、会議のメンバーには、区長会や高崎商工会議所、高崎観光協会、群馬県達磨製造協同組合などの関係団体のほか、若い世代の斬新な発想や情報発信力を期待し、大学生や高校生にも参加して頂きました。

そして、この度、検討会議において、いただいた貴重なご意見・ご提案などを総合的に整理・検討し、施設の目指す方向性や整備の概要を示す「高崎だるまミュージアム（仮称）建設基本構想」を策定しました。

2. 高崎だるまについて

(1) 高崎だるまの特徴

形全体が丸みを帯びて、ふくよかな感じのする高崎だるま。その特徴は、眉毛は鶴、髭は亀を表現しています。日本では「鶴は千年、亀は万年」と言われ、吉祥・長寿の動物に例えられます。その縁起の良さから高崎だるまは多くの人に親しまれてきました。

お腹には「福入」、両肩には「家内安全、商売繁盛、大願成就、目標達成」などの願いを込めて金文字が書かれています。文字が書かれているだるまは全国的に見ても珍しいものです。

また、「七転び八起き」と言われ、いくら転がしてもすぐに起き上がります。重心が安定した形は心の持ち方を示し、どんな困難にも対処できる落ち着いた心と忍耐力を表しています。

(2) 地域団体商標登録

地域団体商標登録制度は、地域の産品等について、事業者の信用の維持を図り、「地域ブランド」の保護による地域経済の活性化を目的として平成18年4月1日に導入されました。

他者による不正使用の防止や、ライセンス契約によりビジネスの幅が広がるほか、地域の名物として国からお墨付きをもらうことで、信用力やブランド力の増大に繋がります

「高崎だるま」は、平成18年に「商標登録第5003697号」として登録されました。

(3) 群馬県指定「ふるさと伝統工芸品」

「ふるさと伝統工芸品」とは、平成5年9月6日に制定した「群馬県ふるさと伝統工芸品指定要綱」に基づき群馬県知事が指定するものです。

「高崎だるま」は、「諸工芸品」の分類にて平成5年に指定されています。

群馬県達磨製造協同組合 HP より抜粋

3. 基本方針

高崎だるまミュージアム（仮称）は、「高崎だるま」の伝統を守り、後世に繋げていくとともに、その歴史や文化を広く世界に発信し、高崎の魅力を高めることを目的に整備します。

施設整備の基本方針には「高崎だるまの歴史や伝統を未来へ発信します」を掲げます。

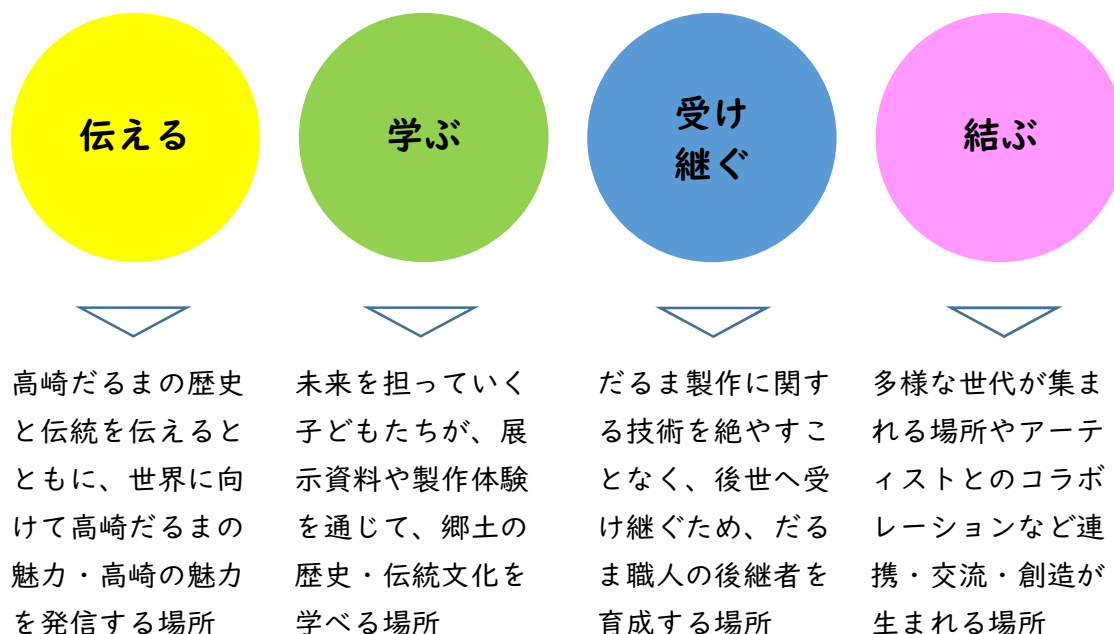
施設整備にあたっての基本方針

高崎だるまの歴史や伝統を未来へ発信します

4. 基本コンセプト

基本方針を具体化するため「伝える」、「学ぶ」、「受け継ぐ」、「結ぶ」の4つを基本コンセプトに各種事業を展開していきます。

4つの基本コンセプト





コンセプト1 伝える

高崎市民の誇りである伝統工芸「高崎だるま」の歴史と伝統を広く、また後世へと伝えていくため、だるまの展示や歴史の紹介を行います。

また、国内はもとより、世界に向けて高崎だるまの魅力を発信していくため、ソーシャルメディアを活用した情報発信に取り組みます。

○事業計画

- ・高崎だるまの常設展示
- ・企画展の開催
- ・製造工程の映像紹介
- ・ミュージアムショップ
- ・メディアを活用した情報発信事業

○事業イメージの例

- ・様々なだるまの展示



コンセプト2 学ぶ

将来を担う子どもたちが、展示資料や製作体験を通じて、郷土の歴史・伝統文化を学べる場所を提供します。

また、創造力、探求心を育むきっかけとなる学習の場として、小中学校の学習プログラムとの連携について研究していきます。

○事業計画

- ・だるま製作の体験教室
- ・小中学校の校外学習
- ・高崎だるまの常設展示
- ・企画展の開催等

○事業イメージの例

- ・絵付け体験





コンセプト3 受け継ぐ

高崎だるまは、張り子だるまで、木型に紙を貼って成形し、よく乾燥した空っ風にさらし、脱型した後、塗料を塗り仕上げを行います。

現在では、大型機械による成形が多くなっていますが、顔書きや名入れなどは手作業によるものが多く、熟練の職人により技術が受け継がれています。

この技術を絶やすことなく、後世へ受け継いでいくため、だるま職人の後継者育成に取り組めます。

○事業計画

- ・だるま製作の体験教室
- ・ワークショップの開催
- ・職人の育成講座
- ・だるま店と職人希望者のマッチング
- ・だるまの歴史講座
- ・資料の収集
- ・資料の保存

○事業イメージの例

- ・ワークショップの開催



コンセプト4 結ぶ

新進気鋭のアーティストやデザイナーなどとのコラボレーションによる新たなアートだるまの製作や、企業との連携による商品開発など、従来の発想にとらわれない新しい「だるま」を創造します。

誰もが気軽に利用できる、ホッと一息つける気軽なカフェなど、地域の交流の場を提供します。

○事業計画

- ・カフェの併設
- ・だるまに関連した食品や商品の開発
- ・オリジナルだるま商品の開発
- ・アーティストによるオリジナルだるま製作
- ・地域交流イベントの開催
- ・ミュージアムショップの併設
- ・だるま工房や縁のある寺社の紹介・案内

○事業イメージの例

- ・オリジナルグッズの販売



5. 施設整備

(1) 整備方針

- ① 地域住民に永く愛され、親しまれるデザインとします。
- ② 高齢者や障がいのある方、外国人観光客など誰もが利用しやすいユニバーサルデザインを取り入れます。
- ③ 維持管理費の節減に努め、省エネルギーやライフサイクルコストに配慮します。
- ④ 県産材などを積極的に活用し、循環型社会の構築や脱炭素社会の実現に貢献するとともに、地域の林業・木材産業の健全な発展を図り、適正な森林整備を促進します。
- ⑤ 親しみやすく一目で認知されるような、インパクトのあるデザインとします。

(2) 各施設のイメージ

体験工房	学ぶ • 受継ぐ
<ul style="list-style-type: none">・ 絵付け体験を通して、小さい頃から、だるまに触れ合い、だるまを身近に感じ、だるまを故郷の宝として、郷土愛を育みます。・ だるま製作の技術を後世に継承するため、後継者育成に努めます。・ 工房は、吹き抜けや全面にガラス張りを施すなど、明るい開放的な空間を演出します。	

展示室	伝える • 学ぶ
<ul style="list-style-type: none">・ 高崎だるまの展示に限らず、世界各地のだるまや変りだるまを収集し展示することで高崎だるまの特色や細部の違いなどを直接感じてもらえるような展示を行います。・ だるまの木型など、古くから使用されてきた製作道具を展示することで、だるまづくりの歴史を知ってもらいます。・ だるまづくりについて理解を深めるため、製作過程を映像やパネルを用い紹介します。	

ミュージアムショップ	伝える • 結ぶ
<ul style="list-style-type: none"> ・ だるまの販売のみならず、だるまに関する商品を多数そろえます。 ・ 文房具や食品などとのコラボレーション商品の開発を行います。 ・ ここでしか買えない特別な品や希少価値の高いだるまなど、他の販売店と差別化を図ります。 	

カフェ	結ぶ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰でも気軽に利用でき、だるまに囲まれ、ほっと一息つける、くつろぎ・憩いの空間を目指します。 ・ 高崎産の食材を使っただるまをモチーフとしたスイーツなどの提供します。 ・ 市内企業と連携し商品開発に努めます。 	

多目的室	学ぶ 結ぶ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画展やワークショップ、座談会など多目的に活用できるスペース。 ・ 地域交流の場、また様々なコラボレーションが生まれる創造の場として活用します。 	

(3) 建物外観イメージ

高崎だるまの魅力強く国内外に発信するため、建物外観にも特色を持たせます。明るく開放的で、誰もが立ち寄りたくなるような施設を目指します。



高崎だるまミュージアム（仮称）建物外観イメージ

6. 管理運営

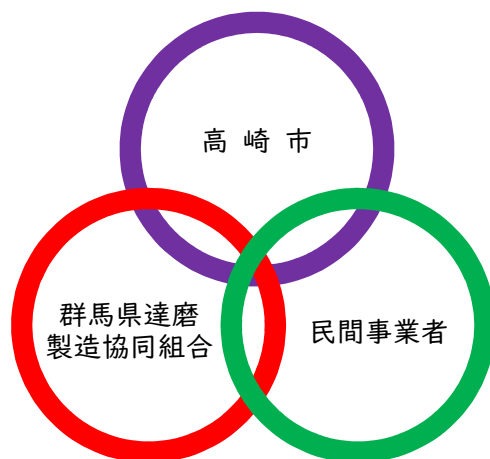
貴重な資料や作品の収集・保存・修復を継続的に行い、将来に渡って引き継いでいくためには、だるまに関しての専門的な知識が必要になります。

また、体験工房では、絵付け体験の指導などを行うため熟練の職人技をもった指導員が欠かせません。

群馬県達磨製造協同組合は、だるま製作・販売に精通しており、だるまを取り扱うプロフェッショナル集団です。

高崎だるまミュージアム（仮称）の管理運営にあたっては、群馬県達磨製造協同組合を主体とした民間活力の導入を検討していきます。

また、売店やカフェの運営、商品開発などについても、市内の民間事業者のノウハウを活用していきます。



7. 今後のスケジュール

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
基本計画策定	▶		
実施設計		▶	
施設整備工事			▶

令和8年度末のオープンを目指し、事業を推進していきます。

8. 参考資料































(1) 検討の経緯









第1回検討会議	令和5年10月13日
第2回検討会議	令和6年2月9日
第3回検討会議	令和6年6月25日

(2) 検討委員名簿

No.	所 属		職 名	氏 名
1	高崎市	高崎市	副市長	兵藤 公保
2		高崎市	副市長	曾根 光広
3	関係団体	高崎市区长会	区長会長	松田 正明
4		高崎商工会議所	専務理事	石綿 和夫
5		高崎観光協会	理事長	安藤 震太郎
6		J R 東日本高崎支社	企画部長	野澤 浩一
7		高崎経済大学	理事長	市川 豊行
8		豊岡商店会	会長	矢嶋 真
9		群馬県達磨製造協同組合	理事長	吉田 昌弘
10		群馬県達磨製造協同組合	専務理事	今井 勤
11		群馬県達磨製造協同組合	相談役	峯岸 貴美次
12		群馬県達磨製造協同組合	理事	遠藤 正樹
13	学 生	高崎経済大学	経済学部	
14		高崎経済大学	地域政策学部	
15		高崎女子高等学校		
16		高崎女子高等学校		
17		高崎女子高等学校		
18		高崎商業高等学校		
19		高崎商業高等学校		
20		新島学園高等学校		
21		新島学園高等学校		
22		新島学園高等学校		

(3) 検討会議でいただいた主な意見・提案

-  小さい子どもが「だるま」に触れ合え、遊べる場所
-  他の施設との差別化、オリジナリティを持った施設
-  SNSを活用した情報発信
-  「映え」を意識した施設や食べ物
-  だるまをライトアップなど映える入口
-  だるまモチーフのカフェ
-  P&R 駐車場を活かした待ち合わせ場所となるようなアンテナショップ
-  きれいで入りたいと思わせるようなだるまの歴史カフェ
-  写真スポット、オブジェクト
-  地域交流の場
-  8月9日のだるまの日割引
-  若い世代の間では、昭和レトロがブーム
-  インパクトのあるものがうける
-  だるまの歴史を伝える展示施設
-  だるまの木型など歴史を伝える展示
-  「SNS映え」するカフェ
-  「音楽のある街 高崎」ならではの音楽とだるまのコラボ
-  通勤通学者が気軽に利用できるカフェからだるまの歴史につなげる
-  建物自体に「映え」を意識する
-  開業時にあわせドラマの撮影や音楽やダンスと組み合わせ
-  だるまの形をしたスイーツやまんじゅうの開発
-  世界中のだるまの歴史や文化を紹介。その中で高崎だるまの特徴を示す
-  製作体験を通じ、職人の育成につなげる
-  製造過程を映像で紹介
-  飽きられないよう定期的な展示の更新や壁面展示などの工夫
-  ここでしか手に入らない特別なグッズ、お土産品
-  食べ物や土産、文房具など様々なコラボ
-  高崎の食材を使った食事の提供
-  若手デザイナーによる絵付けコンテスト
-  郷土の歴史と伝統文化を学べる施設

-  ミュージアムショップは、SNS を活用して世界に向けた販売を
-  展示室は見るだけでなく、触れられ小さな子供の記憶に残る展示を
-  高崎だるまの圧倒的なシェアをPR
-  だるまの歴史を物語に
-  定期的なイベントや食事できる場所などで、継続的な利用を
-  お店で割引やスタンプラリーなどのキャンペーンで、地域全体の盛り上げを
-  世界に発信していくためには、多言語標記を充実させる
-  だるま物語は子供も楽しめるアニメーションで

